

嫌気処理緑茶（ギャバロン茶）の血圧上昇抑制作用

大妻女大家政：大森 正司・岡本 順子，食総研：津志田 藤二郎，
農環研：村井 敏信，国立栄研：樋口 清

〈目的〉先に本研究では、茶葉を嫌気的条件下に置くと、茶葉中にγ-アミノ酪酸（GABA）が増加する事を認め報告した。今回は、この嫌気処理緑茶（ギャバロン茶と呼称）を高血圧自然発症ラット（SHR）に経口投与し、血圧上昇抑制作用を測定したところ、その効果が認められたので報告する。

〈方法〉嫌気処理して得た緑茶50gを1000mlのイオン交換水の熱湯で1分浸出し、試料液とした。通常、茶葉中に含まれるGABA含量は30mg%以下であるが、試験に供した嫌気処理緑茶には約180mg%のGABAが含有されていた。9週令オスのSHRラット（200～220g）を1群8匹として、①対照区(1)：イオン交換水投与、②対照区(2)：普通緑茶投与、③試験区：ギャバロン茶投与の3群とした。餌は日本クレア固形飼料（CE-2）を用いて飼育した。

〈結果〉SHRラットにギャバロン茶を経口投与すると、飼育初期血圧（9週令）は160mmHgであったものが、13週令には対照区（(1)、(2)）で180、試験区で150mmHgであった。このSHRラットをこのままの状態でも16週令まで飼育後、試験区と対照区を交換すると、投与後1～2週間で150mmHgだったものが180に上昇し、180mmHgであったものがギャバロン茶投与により、160mmHgまで減少した。飲水量と体重の変化に関しては試験区、対照区との間に有意差は認められなかった。